

(A)

ワークショップおよび国際委員会等参加報告書

2014 年 4 月 11 日

報告者	氏名：島田 浩二
	所属：東京海洋大学

会合名	ASSW2014
会合目的	北極科学の推進
主催団体(共催の場合並記)	国際北極科学委員会・IASC
会合年月日	2014 年 4 月 5 日 ~ 4 月 8 日
会合場所	会場名称：University of Helsinki Kumpula Campus 国名(都市名)：フィンランド(ヘルシンキ)
出席者(島田以外)	4/5 IASC/MWG：山口(東大)、極地研事務局 4/6-7 PAG：菊地(JAMSTEC)、極地研事務局 4/8 ICARPⅢ：大畑(JAMSTEC)、児玉(NIPR)、極地研事務局
会合開催の経緯	年会
主要な議論と決定事項	IASC/MWG：WGの活動報告と計画、副議長(米国)の他国への異動に伴う、再選挙はなし。 ICARPⅡはサイエンスプランであったが、ICARPⅢは実行プランの集合体であるという認識。 PAG：PAGの活動報告と2014年観測計画についての紹介。太平洋側北極海におけるClimateセクションの提案。 ICARPⅢ：特になし
本会合の今後と関連会合	PAG：秋にシアトルにて開催予定。
会合における報告者の役割、発表内容	IASC/MWG：特に報告なし PAG：太平洋側北極海におけるClimateセクションの提案(発表)。 ICARPⅢ：特になし
報告者ないし日本のコミュニティー・JCARが留意すべき点、およびアクションを起こすべき事項	ICARPⅢは、関連団体からの計画提案によってまとめられるが、日本は如何にコミットするか、その方策を立てたほうがよい。 ICARPⅢ関連団体であるMWG、PAGともに、実行プラン重視でのICARPⅢ計画書を想定している。国際的に対話を図りながら実行計画(長期構想)及び研究企画立案が必要であろう。
備考(上記以外の事項)	
添付資料(○をつける)	・アジェンダ ・主な参加者一覧 ・会合の配布・発表資料(可能な範囲) ・会合主催者作成の報告書(後日提出可) ・その他()